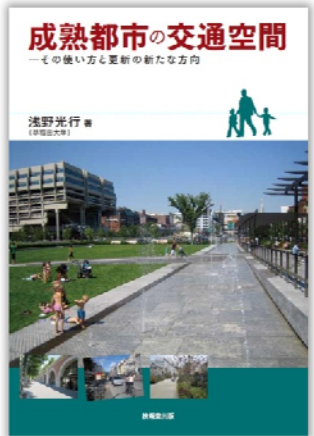


# 成熟都市の交通空間

## —その使い方と更新の新たな方向

浅野光行(早稲田大学)著/A5判/178頁/価格 2,800円+税  
発行:2014年2月/ISBN 978-4-7655-1811-6



### 【まえがきより】

(前略)新しい世紀に入り最初の10年間、わが国は人口もそのピークを迎え、引き続き経済は低迷しつつも、社会と経済は落ち着きを取り戻し、成熟時代を迎えつつあるように見られた。しかし、2011年3月11日の東日本大震災はそれまでの基調を根底から揺るがした。津波は多くの人命を奪い、地域を飲み込み、甚大な被害をもたらしたばかりでなく、福島第1原発の爆発とそれによる放射能汚染は今後100年を超える負の遺産を残した。一方、京都議定書の第1約束期間の終了とともに地球温暖化対策は大きな節目を迎えている。わが国のエネルギー政策は基本的方向が見えない中で、世界経済の行方とともにこの課題にどう対処するかは、大きな課題であろう。

(中略)都市づくりと交通空間の整備は、日本を取り巻く社会経済環境とその変化に対応すべく、新しい交通施設の整備から交通需要の管理まで、時代に応じた様々な方策を実行してきた。都市の経済活動を見ても、活発な時は交通需要が増大し、停滞している時は逆に交通需要も減少するといったように、社会経済活動と人々の交通行動の間には密接な関係がある。(中略)21世紀の都市づくりと

交通計画が目指すべき基本的な方向として「持続可能性(Sustainability)」は、引き続ききわめて重要な課題として認識すべきである。

本書は、これからの都市地域は、変化を見せながらも、その速度は緩やかなものとなり、確実に成熟社会へ向かって進むことを基本の認識としたうえで、成熟した都市地域の都市づくりと交通空間の整備のあり方を明らかにしようとするものである。社会全体が成熟時代を迎えて成熟社会を形成し、その社会が営む都市地域が成熟都市ということになる。本書で用いる「成熟」が意味するところは、熟す、円熟する、という言葉のとおり、成長期を越え、安定し、ゆとりを持ち、豊かであるなどの、前向きな状態に捉えるものとする。(中略)

大事になることは、これから更新の時代を迎える都市の道路や鉄道の再整備に合わせ、成熟都市に相応しい空間を都市づくりの中で創出することである。本書が、そのような試みに示唆を与えられれば幸いである。(後略)

\*\*\*\*\*

## —お申込書—

- 全国の書店にてご注文(予約)頂けます。●下記に必要事項をご記入の上お近くの書店でお申込みください。
- お近くに書店がない場合、弊社からの直送もお申込み頂けます。■直送をご希望の場合、下記に必要事項をご記入の上、弊社営業部まで FAX(03-5217-0886)、または郵送にてお申込みください。■送料は無料です。■請求書は別途ご郵送となる場合がございます。
- 個人様名義でご注文頂いた場合、代引きのみでの出荷となります(代引き手数料200円が書籍代とは別に掛かります)。



(ふりがな)

【法人名】

【部署名】

(ふりがな)

【お名前】

【郵便番号・ご住所】〒

【お電話番号】

(書店様欄) 番線印

【ご注文冊数】 \_\_\_\_\_ 冊

忘れずにご記入ください!

技報堂出版株式会社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-2-5

TEL 03-5217-0885/FAX 03-5217-0886

## 目次

第1章 成熟時代を迎える都市地域	3-2-3 高架道路の地下化と地上空間の活用
1-1 21世紀の都市地域を考える視点	3-2-4 都心部を貫通する地下道路の新設と都心空間の更新
1-1-1 豊かな自然に恵まれた日本の国土	第4章 鉄道空間を活用した都市の再整備
1-1-2 人と自然が育む風土と文化	4-1 鉄道を中心に発達した日本の都市
1-1-3 都市と自然の葛藤と共生	4-1-1 鉄道の出現と都市
1-1-4 日本の社会システムと人々の行動規範	4-1-2 鉄道と市街地の形成
1-1-5 環境の世紀と個性ある都市地域の形成	4-1-3 鉄道と都市開発の連携
1-2 成熟社会の到来と都市地域	4-2 鉄道駅と街の関係を再考する
1-2-1 「成熟」の意味するところ	4-2-1 鉄道駅が持つポテンシャル
1-2-2 成熟社会の諸相	4-2-2 駅前広場整備の変遷と現状の課題
1-2-3 成熟都市への道	4-2-3 駅と駅前広場
1-3 都市地域の成熟化と地球環境問題	4-2-4 駅舎と駅前広場の調和
1-3-1 21世紀、世界は都市の時代	4-2-5 駅と街の新たな関係に向けて
1-3-2 開発途上国の経済成長とCO <sup>2</sup> の排出	4-3 地方都市の鉄道と展望
1-3-3 グローバル・ポリティックスとしての地球環境問題	4-3-1 地方都市と軌道系交通システム
1-3-4 世界の地球温暖化の現状とCO <sup>2</sup>	4-3-2 地方都市の明日の姿
1-3-5 日本のCO <sup>2</sup> 排出量と都市	4-3-3 軌道系交通システムを生かした都市づくり
1-3-6 CO <sup>2</sup> 削減を目指した都市づくり	4-4 鉄道立体化の要請と連続立体交差事業
1-3-7 低炭素型の都市に向けた成熟都市の役割	4-4-1 鉄道立体化の要請
第2章 成熟社会における都市づくり	4-4-2 連続立体交差事業
2-1 変わる都市交通計画	4-4-3 連続立体化の今日的な意義と役割
2-1-1 都市交通の計画と整備：過去から現在を駆け足で	4-4-4 成熟社会における鉄道立体化の視点と課題
2-1-2 都市圏交通計画と計画課題の変化	4-5 鉄道立体化と都市空間の再編
2-1-3 計画主体と計画の管理	4-5-1 鉄道高架化と高架下の利用
2-1-4 都市交通データの収集	4-5-2 鉄道の地下化と地上空間の活用
2-2 都市の土地利用と交通	4-6 廃線になった鉄道空間の活用
2-2-1 都市圏交通計画と土地利用	4-6-1 廃線後の様々な利用形態
2-2-2 都市施設計画と土地利用	4-6-2 芸術の高架橋と緑の遊歩道：パリ
2-2-3 都市開発と交通計画	4-6-3 ハイライン公園とレールバンク制度：ニューヨーク
2-2-4 地区レベルの交通計画と土地利用	4-6-4 山下臨港線プロムナード
2-2-5 新たな時代の都市交通計画と土地利用	第5章 シェアする時代の交通空間
2-3 地区レベルの交通空間整備	5-1 都市づくりとシェアする視点
2-3-1 日本の地区交通計画に大きい影響を与えた概念	5-1-1 「シェア」とは
2-3-2 日本での適用と実践	5-1-2 環境、開発とシェア
2-3-3 自動車のための空間整備	5-1-3 土地利用計画と空間のスプリット
2-3-4 安全で魅力ある地区の道路空間に向けて	5-1-4 土地所有のスプリット化と共同利用
2-4 自動車依存の軽減	5-1-5 「公と私」、「官と民」の空間シェア
2-4-1 モータリゼーション成熟時代	5-1-6 交通計画とシェアする視点
2-4-2 自動車依存軽減と都市づくり	5-1-7 地域のシェアと連携
2-5 成熟時代の交通空間の計画と整備	5-1-8 都市づくりにおける時間と価値の共有
2-5-1 計画と整備のいくつかの課題	5-2 街路空間の新たなデザイン「シェアド・スペース」
2-5-2 計画と整備の方向	5-2-1 シェアド・スペースとは
2-5-3 計画と整備のシステム	5-2-2 シェアド・スペース：その基本となる考え方
2-5-4 計画と整備の新たな形	5-2-3 シェアド・スペース5つの戦略
第3章 都市内道路の整備・更新と都市空間の再編	5-2-4 シェアド・スペースプロジェクトの誕生
3-1 成熟時代の都市内道路の整備と役割	5-2-5 シェアド・スペースの広がりと展開
3-1-1 需要追従時代の終焉	5-3 交通手段をシェアする
3-1-2 ストックの維持をどうするか	5-3-1 「持つ」時代から「シェアする」時代へ
3-1-3 成熟都市の道路整備：3つの役割	5-3-2 カーシェアリングの仕組みと普及の足跡
3-2 成熟都市における高速道路の整備と更新	5-3-3 その特徴：環境に優れた車の使い方
3-2-1 整備と更新のタイプ	5-3-4 シェアする交通手段：新たな展開
3-2-2 高速道路の撤去と地上空間の解放	